

中国古鏡銘仮借字一覧表 (稿)

笠野毅

論文要旨

漢字で書かれた文章中には、古今を問わず同音の当て字＝仮借字がしばしば用いられている。漢鏡の銘文のなかにもこの仮借字が少なくない。漢鏡銘の釈読と解釈には、仮借字とその本字を正しく求めておくことが必要不可欠である。そうしないと、記された文字の意義のまま解釈したり、あるいは誤った本字にもとづいて解釈し、いずれにしても鏡銘の正しい理解には達しない。

仮借字の見当のつけ方・本字の求め方の一般的な方法はあるが、実際に仮借字を見極め、本字を比定する作業は困難を伴うことが少なくないし、たとえ可能でも時間と努力を必要とする。あらかじめ仮借字とその本字が求めてあれば、そうした苦勞をせずに鏡銘の正しい解釈と鏡銘にもとづく研究に専念できるであらう。新しい問題の発見や深い理解も期待できる。こうした点を考慮して、漢鏡銘中の仮借字と本字とを表にして示すこととした。従来、筆者は仮借字を見出すたびに努めてカードに記録してきたが、先学の業績を上まわる数に達したので、この機会にまとめてみたものである。しかし、見落しや誤りなども考えられ、なお類例の増加も見込まれる。将来、補訂を期すこととしたい。

なお、本稿における仮借字は、漢～六時代の漢字の用法とわれわれの漢字に対する理解を基準にして範囲を限定した。また、会意文字における扁旁等の省略された文字も、本稿に加えることとした。